

| | | | | | |
|---|--|---|--|--|--|
| 校訓（建学の精神） ・きたえる ・たかめる ・思いやる | | めざす児童像 ○目標をもって、挑戦する子 ○学びを楽しみ、学びを生かす子 ○人との関わりを大切にし、豊かにつながる子 | | めざす教師像 ○チャレンジ精神・向上心のある教師 ○授業を大切にし、児童を伸ばす教師 ○チームで、豊かに育てる教師 | |
| 学校教育目標 「自らのよさを感じ、自ら考え行動する 作見っ子の育成」 | | | | | |
| 重点目標 「楽しい学校は、自分でつくる みんなでつくる」 ～自分から ～みんなのために～ | | | | | |

| 評価の項目 | 今年度の重点目標 | 具体的取組 | 担当 | 現状及び取組状況 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 備考 | 判定結果(中間) | 判定結果(最終) | 今後の改善策 |
|--------------------|---|--|------------------------------|--|--|--|-------------------------|----------|----------|---|
| ①教育課程・学習指導 | 主体的に学ぶ授業を通して学力の向上を図る。 | ・「付きたい力に応じた対話的な学びの充実」を重点として研修を深め、授業力を高める。 ・児童が学習を自ら調整し、工夫していく学習形態の授業実践に取り組む。 | 研究主任 教務主任 | 付きたい力につながる言語活動を設定し、指導事項とねらいを明確にした授業づくりに取り組んでいる。ねらいに応じた交流場面を設定し、対話的な学びの充実や、児童が主体的に学ぶ学習形態の工夫を推進する | 【成果指標】 対話的な学びの充実に向けて、交流場面や学習形態の工夫をする。 | 授業において交流場面や学習形態の工夫をしているという教職員が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である | 1. 2学期末に教職員にアンケートを実施する。 | A | | ・言語活動モデルを作成し、付きたい力を明確にした授業づくりを行うことができた。1学期の学びを2学期につなげていく。 ・交流場面や学習形態の工夫をねらいや学年に応じて進めていく。 |
| ②生徒指導 ※いじめの未然防止 | 安全・安心な風土を醸成する。 | お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活を送れる風土を教職員の支援の下で児童自らが作り上げられるように取り組む。 | 生徒指導 主事 | 児童の自己肯定感や自己有用感が低く、たくさんの人から認められる経験が乏しい児童が多い。いいね作見小の取り組みを生かして、安心・安全な風土の醸成を行う。 | 【成果指標】 いいね作見小の取組を積極的に進めている。 | いいね作見小の取組を積極的に進めているという教職員が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である | 1. 2学期末に教職員にアンケートを実施する。 | A | | ・高学年を中心にいいねカードを積極的に書く児童が多く、取り組み浸透してきた。 ・高学年は視点を絞って、取り組み質の向上を目指し、低学年は数を書くことで認められる良さを実感させていく。 |
| | 児童の自治能力の向上をめざす。 | クラス会議等を通じて、児童個人がクラスを良いものにしていく意識を高め、安心して自分の考えを話し合えるクラスづくりができるようにする。また、6年児童や委員会活動等を通して学校生活をより良いものにしていく意識を高める | 生徒指導 主事 | 落ち着いて学習に取り組む、友達と関わる姿が見られるが、クラスや学校全体に係わることは、やや意識が低い傾向があるので、多くの児童の当事者意識を高める必要がある。 | 【成果指標】 委員会活動やクラス会議等において、考えを持ち発言しようとする姿が見られる。 | 「クラスや委員会の話し合いで、自分の考えを話すことができた」という児童が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である | 1. 2学期末に児童にアンケートを実施する。 | D | | ・2学期は色々な行事があるため、それを通してそれぞれが発言する機会を作り、自信をつけるようにする。 ・縦割りを意識し、高学年を中心に発信する場を作るようにする。 |
| ③キャリア教育・進路指導 | 自分の良さに気づき、自ら考えて行動する児童の育成を図る。 | 行事を中心に日常生活の中で自分の良さに気づき、自ら考えて行動するための指導を行う。また、キャリアパスポートを活用し、1年間のめあてを立て、学期ごとに振り返りを行う。 | キャリア 教育担当 | 自分の良さを実感できていない児童が多い傾向がある。各種行事や代表委員会を中心に、児童に活躍する機会を与えていく。その中で、児童が主体となって学校を作っている実感を持てるようにしていく必要がある。 | 【成果指標】 児童は自分に良さがあると感じている。 | 「自分には良いところがある」という児童が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である | 1. 2学期末に児童にアンケートを実施する。 | B | | ・各学年クラスの実態に応じて、認め、褒め、価値付けることを続けていく。 ・後期の委員会や学級役員を行事と連動させながら、学校スローガンをともに児童同士で認め合う環境づくりを進めていく。 |
| ④保健管理 | 歯と口の衛生に対する意識を高める。 | ・歯と口の衛生週間に全学年保健指導を行い、委員会活動や学校保健委員会等で年間を通して歯と口の衛生に対する意識を高める。 ・給食後の歯磨きを再開し、歯磨き強化週間に6月と11月に設定する。 | 保健主事 養護教諭 | コロナ禍で給食後の歯磨きやマスクを外しての歯磨き指導ができなかったため、歯と口の衛生に対する意識を高める必要がある。 | 【努力指標】 児童が歯と口の衛生に意識して取り組んでいる。 | 「歯磨き強化週間に意欲的に取り組んだ児童の割合が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である | 「歯磨き強化週間の取り組み状況を把握する。 | A | | ・6月の「歯磨き強化週間」では14日間のうち10日以上できた児童が89%であった。土日は家庭の事情によりできなくても、養護教諭と栄養教諭による保健指導や保健委員会児童による読み聞かせや意欲付けの俳句募集を行ったので、給食後の歯磨きはできた。10月の強化週間でも啓発していきたい。 |
| ⑤安全管理 | 児童の情報モラル・セキュリティに対する意識を高め、ネットの適切な使い方を実践する。 | ・教科の指導や学活の時間等を含めた様々な学習場面で、児童自ら責任を持って、適切に情報を扱おうとする意識を高め、行動できるようにする。また、保護者と連携しながら啓発に努めるようにする。 | 生徒指導 主事 | 情報通信端末を発端とした児童同士のトラブルが見られるようになり、今後大きなトラブルに発展する可能性がある。そのため全ての児童が適切に情報通信端末を扱えるように児童の意識を高める必要がある。 | 【成果指標】 児童がネットに関する家庭でのルールを守っている。 | 「お家の人とのゲームのルールを守っている」と答えた児童の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である | 1. 2学期末に児童アンケートを実施する。 | C | | 29.1%の児童が守れていないもしくはルールがないと回答していた。ルールに関する取り組みを学校全体で取り組み、家庭と連携する必要がある。ルールを作りそれが守られているか確認したり、適宜啓発を行う活動を月1回程度行ったりする。 |
| ⑥特別支援教育 | 特別な支援を必要とする児童について理解を深め、支援のしかたを検討し実践する。 | 児童の実態をつかみ、適時校内支援委員会を開いたり専門相談につなげたりしながら、より効果的な支援のしかたを検討、実践する。 | 特別支援教育 コーディネーター 教育相談担当 | 校内支援委員会でケース会議などを開き、専門相談につなげたり支援の方法を検討したりしている。それぞれのケースについて、さらに継続して支援の方法を探っていくことが必要である。 | 【努力目標】 支援委員会で、具体的な支援のしかたを決めて、実践しようとしている。 | 具体的な支援を行うことができたという教職員が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である | 1. 2学期末に教職員にアンケートを実施する。 | A | | 校内支援委員会やケース会議を開き、支援の必要な児童について共通理解し、組織的に対応している。引き続き、外部機関との連携も続けていく。SCや山下特別支援アドバイザーにも助言を頂き、今後の支援に繋げていく。 |
| ⑦組織運営・業務改善 | 業務の精選、勤務時間に対する職員の意識改革を進める。 | 勤務時間記録をもとに、時間外45時間を超えない働き方への意識を高めるとともに、業務の精選、削減、平準化を進める。 | 教頭 | 業務改善の意識は浸透してきているが、担当業務による時間外勤務時間の偏りが見られる。各自が自分の働き方を見直したり、常に各部会・全体会等で互いに確認したりして、業務改善の意識をもち、企画・実行していく。 | 【努力指標】 教職員が、全体や個人の取組の中で、勤務時間の削減に取り組もうとしている。 | 「時間外勤務時間を45時間以下にしようと努力している」と回答した教職員が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 50%未満である | 1. 2学期末に教職員にアンケートを実施する。 | A | | 平均時間外勤務時間は4月は49.5時、44.5時間、47.4時間、35.3時間と減少しているが、依然として担当業務等による偏りは見られる。行事などを行う際は、目的を確認し、時間や内容を業務改善の意識をもって見直す。 |
| ⑧研修 | 教員の情報活用能力を育成するための研修を実践する。 | PC活用講習会を実施することを通して、日々の実践の交流やPCの使い方、PCを活用した授業の教材研究について教員が学ぶ機会を設け、実践を積み上げる。 | 教務主任 GIGA推進 リーダー | 昨年度より、月に1度のPC活用講習会を設定した。PCの扱いには慣れてきているが、教科の特質に応じた活用や実践の機会を増やす必要がある。 | 【努力指標】 PC活用講習会等の校内研修を経て、教科の特質に応じた活用をし、実践しようとしている。 | 情報活用し実践に努めることができたという教職員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である | 1. 2学期末に教職員にアンケートを実施する。 | A | | 月に1度のPC活用講習会を行い、教師のPC活用力の向上につながった。今後も継続して講習会を行い、新たな活用事例等を交流し活用力を高めていく。 |
| ⑨保護者、地域との連携 | 学校の情報を提供したり、学習の中で保護者と連携する場を設け、開かれた学校を目指す。 | 学校便り、ホームページ等を通して、学校の様子を積極的に発信する。学習の成果物について保護者の感想をもらったり、授業を生かした家庭での取組を行ったりする場面を設定する。 | 教頭 | コロナ禍の中で、児童の学校生活の様子が保護者や地域に伝わりにくい状況があったため、学習の中で、家庭と連携する取組を行ってきたが、見通しをもって行うことが難しかった。どんな連携ができるかを情報共有し、計画性をもって、行っていく必要がある。 | 【努力指標】 学習の中で、家庭との連携を意識した取組を行っている。 | 授業等で家庭と連携した取組を行ったと回答した教職員が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 50%未満である | 1. 2学期末に教職員にアンケートを実施する。 | B | | 様々な授業の場面で、保護者の感想をもらったり、説明する機会を設けたりすることができた。2学期以降についても、保護者との連携が可能な単元や内容、方法を、計画的に考え進めていく。 |
| ⑩教育環境整備 | 児童の安全安心のために、施設・設備の安全点検を実施して、改善する。 | 毎月15日、管理場所の安全点検を行い、不備な箇所については、速やかに修繕を行う。 | 教頭 | 毎月15日に、安全点検は行われており、不備な箇所の修繕もしているが、一部老朽化が進んでいる箇所もあり、児童の視点に立った安全点検を行っていく必要がある。 | 【努力指標】 危険防止の意識が高まり、施設の不備を未然に察知することで、改善に向けた努力を行っている。 | 児童の視点で、安全点検に取り組むことができた教職員が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 60%未満である | 1. 2学期末に教職員にアンケートを実施する。 | A | | 今後とも児童の立場に立った安全点検を行っていく。不備を発見した場合は、迅速に対応し、事故を未然に防ぐ。外の遊具については、外部業者の点検も取り入れる。 |